



和華書

利是

下

奴²
708
76





圓流算法算術卷之十四

利息后集

一今銀を貸す百匁と借すを百匁一月
月の利息銀を借す元どしを五ヶ月の利
銀何銀と云

答云

例云元銀を借すを百匁と借すを百匁一月の
月の利息銀を借す元どしを五ヶ月の利銀何銀と云
答云元銀を借すを百匁と借すを百匁一月の
月の利息銀を借す元どしを五ヶ月の利銀何銀と云
答云元銀を借すを百匁と借すを百匁一月の
月の利息銀を借す元どしを五ヶ月の利銀何銀と云



二
一 今限三百成積より借入年利一割
一分より五年の利限は従高

是等向

刑向元限積と云々一年の利法
二つと算して一年の利限三成中
此より十年の利法と算して五年の
利限と云々同云々

三
一 今令元限積より借入元金積以て
月利を各一年三ヶ月の利金何従高
是等向積以兩成也

做曰元金毎と云々一十成也と云々
除く積数三三三三寄位 別一年の
月数三成並三ヶ月と加く在得月数
能別分積数三三三三寄位中算
て其利字三三三三兩法四小満其
除く一年三ヶ月の利金三三三三と云々
令向
其例曰元金毎と云々金を安し水
と云々寄位 別一年
月数三成並三ヶ月と加く其
得月数三ヶ月寄位中算

得永二百年 實々金二十改あといふ
法よりいふ 實改除く得教兩下
是と因一して一年三月の利息改
改得ん 同小金也

毎期日之金解と並金とを一粒と
して多し得教一寄位乃同月利
別一年月教二奇月の教とを相
係く其得月教解一寄位不
算して得教二實々
別二十改を並てあ法改あといふ
均教解法といふ 實改除く兩
下是と因一して一年三月の利息

四

一 今銀八舟自之一年一刻半と利を起す
之年九月の利息は何れなる 乃西橋
二ヶ月

二十改
改分 といふ同小金也
一ヶ月
二ヶ月
三ヶ月
四ヶ月
五ヶ月
六ヶ月
七ヶ月
八ヶ月
九ヶ月
十ヶ月
十一月
十二月
一年
二年
三年
四年
五年
六年
七年
八年
九年
十年
十一年
十二年
十三年
十四年
十五年
十六年
十七年
十八年
十九年
二十年
二十一年
二十二年
二十三年
二十四年
二十五年
二十六年
二十七年
二十八年
二十九年
三十年
三十二年
三十四年
三十六年
三十八年
四十年
四十二年
四十四年
四十六年
四十八年
五十年
五十二年
五十四年
五十六年
五十八年
六十年
六十二年
六十四年
六十六年
六十八年
七十年
七十二年
七十四年
七十六年
七十八年
八十年
八十二年
八十四年
八十六年
八十八年
九十年
九十二年
九十四年
九十六年
九十八年
一百年

利白之銀解と並て 年利法
五ヶと算して一ヶ年の利銀二は
別三ヶ年九月と並て 年下
二ヶ年除く得教一寄位
限百目と算して 均利銀一は
得小算して均利銀一は

以て実を減く利限本と為る同
金商

五
一 今限高五五と百の法五五と為る毎半年

二割の利を加^{の利の利}と為る 三年六ヶ月の利
限何限も向

若くは利限改申す百五五と為る
割白率元利之法二五と為る再自
算して三年元利の利法二五七と
得ん元限五五二改算して三年元
利利限五五改算して三年元利
利法二五

若くは五と四年五と為る一年の利限
割白と得ん年法二五と為る除く
一ヶ月の利限改算す寄目の數二
と為る一ヶ月の利限五と為る
三年元利限五五と為る三年
二ヶ月元利限五五と為る
元限五五と減して三年二ヶ月
月利の利を加く利限五五と為る
同
又割白率元利之法二五と為る再

自新しして三年久利の利法一七
 とゆゑ元帳三五積成算しして三年
 久利利限四目と得る寄位
 別寄月の敷二張を以て年利法
二ヶと算しして 四ヶ小年法三ヶと加へ
 其得敷十二と寄位三と算しして
九百 寄再位 別久利三五積成算
三ヶ 年法二十と算しして得敷三十七
三ヶ 寄再位と減しして條二十九
 成算しして年法三ヶと算しして
二五 寄再位 以得る同久利

一今限一月月此利限を算しして
 六月十二日の利限百圓と算し
 以久利何限と

答曰三月月

利白六月十二日と利限百圓と算し
 と算しして算しして六月十二日
 成算しして月法三ヶと以て奇月十二日
 寄再位三ヶ 以久利を算しして六月
 利三ヶ と算しして久利を算しして六月

十二日の利限讞とす。法とす。以て
実成際へ元限去るまで五百息とす
於て金勢

七

一、今有年、二割ノ利と加へて乃利ニ利
と加ふ三年
の利金百八拾五両也。元金何程と云

答曰

刑曰利金二百兩と云て實と云別
二割元利と法ニ成るべく再自
しく得敷二八七兩元の法を減

余二八七と法と加ひて實成際へ元
金二百五と云ふ同ふ金也

八

一、今有年、二割ノ利と加乃利ニ利
と加ふ毎
年銀八百二十兩宛三年成、還るに
金と云。限二十兩りり。元金何程と
答曰元金二百二十兩也

刑曰毎年等々也。元金二百と云て
二割元金の法ニ加ひて除く

年同本金の減額 二百七十五兩 とあり、等々
 返金 二百一十五兩 と加へて二年同本金
 元利銀 二百一十五兩 と得ん元利の法
 二ヶとらへ除り初年本金の減額を
二百二百五十七兩半 とあり、返金 二百一十五兩 と加へて
 初年元利銀高 二百四十七兩半 減額元利
 の法 二ヶとらへ 除り元利 二百一十五兩 減
 額金 二百一十五兩 の両法 二ヶとらへ 除り
 両下四と因り元金 二百一十五兩 とあり、
 同ふ合あり

又例白年元利の法 二ヶとらへ 減額 二百一十五兩 とあり、
 元法 一ヶとらへ 算り得額小元法 一ヶとらへ
 減額 二百一十五兩 又二年元利
二ヶとらへ とあり、元法 一ヶとらへ と加へ
 其得額 二百四十七兩半 毎年等々元金
二百一十五兩 とあり、二百一十五兩 減額 二百一十五兩 とあり、
 以別年元利の法 二ヶとらへ とあり、
 再自算り得額 二百一十五兩 毎年等々元金
二百一十五兩 減額 二百一十五兩 とあり、
 以て實際減額 二百一十五兩 あり、
二百一十五兩 減額 二百一十五兩 あり、

元金二百二十と得る同少金也

九
一人有錢紙信をある文一ヶ月の利
調銭五文今七ヶ月の元利を六
月二百七文四文を還し元利を何
向

答曰 元四文二百文
利一五文百七文

削曰 元利を六文の調銭五文
百より六文外に四文減して調銭
五文と得る實に別一五文一
向

月の利得るといふ月教七と算して
元一五文七ヶ月の利三三と
總をある文の調銭四三と加へ其
得教一三三と法と次いで實を除
減四三減得る同少金也

若し削るといふ調銭六文三
十六文一五文算して實を
月教の月の利と算して九百
六文と加へ得教法と
而も一ヶ月同少金也

今より十月の元利今より一百四拾
五圓より一月の利を下取せり元利
各何程と

元金一百四拾五圓
利息二十五圓

例白元利は元金一百四拾五圓より算し

別々月利は三〇ヶと算し月利を

算し得銀三〇ヶ元法と如く

其得銀三ヶと得銀三ヶより算し得銀

元金一百二十五圓より算し

今限債借を有する年々一刻半此利を

如く五年の如く元金及利金今より

一千四百七拾五圓と算し元金は

金を算し限一千四百七拾五圓

元金一千四百七拾五圓
利息七拾五圓

例白元利は元金一千四百七拾五圓より算し

年一刻半の法より算し得銀

五取の利
 金切七と得る身位別元法に
 残る金と金と五と得る限計残
 して元一ヶの限計残得る身位
 小加してその数二十五と法と
 以て実を除く因法百と元
 一ヶ此限十四と法と元限百四
 此系別元一ヶ此利金七五と法
 と同法百取法と利金七五と法
 同二五と法と

亦制白元利其令限一千四百と法と
 兩の限計残と得る二百と法と
 実と別と手利法一五と法と
 年数と法と元一ヶと法と
 利金七五と法と元一ヶと法と
 と加して其元一ヶ此限と法と
 利金との和七五と法と
 と法と元限と法と元利法の
 限一千四百と法と元利金と法と
 得る同と法と

一 今金と債を有り年一刻の利を加
乃利 三ヶ年 利限及元金今々二千
利と加 八百一十七兩 但支留限十兩五元金及
利限各々同

元金五百兩

利限二千五百二十七兩

例白元利其令限 二千八百 一十七五 と定るとん

年一刻元利と率所と定ると再自
新と元一ヶ利と利を加ると元利と

和 三ヶ年 と定ると元法一ヶと減ると金

三ヶ年 少高留限 二十 と定ると元一ヶと定ると

年と利限 四百 と定ると元金率二兩

と加ると元一ヶ元利金限、和 四百 と定ると

法 四百 以ると定ると除ると元金留限

得ると元利金限 二千八百 と定ると

附利限 二千五百 と定ると同と定ると

一 今錢と債を有り年一刻の利を加

元金利銀の如^{四半}百^七五^五 減^一々^一年利
限^{三千九百}
七^千五^百 減^一々^一年利

十四

一 今限百目紙信す千利限合七千七五^五
五^五 個百文 舟一ヶ月の利五^五 減^一々^一信月
紙^一々^一信月

若^一白^一切^一月^一九^一日

以^一題^一元^一利^一之^一教^一之^一限^一之^一云^一又^一云^一
教^一之^一限^一之^一云^一所^一不^一利^一理^一効^一字^一不^一
通^一之^一紙^一之^一依^一之^一限^一百^一文^一舟^一一^一月^一此

十五

一 今^一之^一元^一金^一紙^一百^一回^一限^一五^一年^一一^一割^一半^一此
利^一之^一加^一之^一元^一利^一七^一百^一回^一限^一四^一年^一と^一是^一以

利^一之^一負^一と^一見^一て^一例^一路^一の^一助^一之^一た^一の^一如^一
例^一曰^一利^一銀^一七^一千^一七^一百^一七^一五^一 別^一之^一元^一限^一
目^一音^一と^一是^一と^一利^一之^一教^一之^一限^一之^一云^一所^一不^一利^一理^一効^一字^一不^一
除^一之^一一^一月^一の^一利^一銀^一紙^一と^一是^一以^一
實^一成^一除^一之^一四^一月^一之^一不^一信^一之^一如^一不^一
一^一月^一之^一日^一教^一紙^一と^一是^一以^一之^一奇^一之^一此^一教^一
日^一之^一如^一之^一其^一之^一切^一月^一九^一日^一と^一是^一以^一之^一四^一年^一集

借年款ありき

是日十四年

例曰元利氏金七百四十と云て元
金二百四十と減して餘利息金四百五銭
消ん実と別元金四百四十お云て
年利の法一五と算して一年の利息
算と法と人以此算成除の年
数計とあり向ふ合算

十六

一 今有元限三百拾貳元下 毎月四元
利成加乃利の利元利氏三百四元下
六地と云て借日数何程と云

是日二十月十音

例曰一月元利率一四と云て元限
三百下 元金一と云て元利率の和二
と云て元金と元利率三百四
と云て又元利率一四と云て元
月元利率二と云て元

利在銀より少くあふ又元利三年
一ヶ月と算して三ヶ月の元利の利
その元とあるを算しおわくは元利に銀
十音四下を算しより多しあふ二ヶ月有
奇少也

別小必去銀三音四下四の四二ヶ月の元
利と和十音三と減して銀三音一と算し
三ヶ月元利共銀三音一
と算して二ヶ月の元利の和十音二
減して三ヶ月より高し三音十音と

利銀千五百とある時とあり除く一日
と利分〇〇〇とありはく算除く
日数千五百減ゆる共二ヶ月十音と
以て合算

一 元銭九千一冊あり二年の割の利をかく
乃利利 毎季算し四倍を算しはるるの還
借年数何れなる

元白三年

形白久浅 九十一 与並年二割と元
 利率二万と寄して得 二百〇九 内寄
 込 四百三 成 二百文 減 六十六 有一
 年 六 寄 七 又元利と率二万成
 寄 七 得 七 田寄 七 必 七
 文 七 減 七 得 七 二 七 年 七 有 七
 又 七 利 七 率 七 二 七 万 七 寄 七
 減 七 寄 七 文 七 減 七 寄 七 文 七
 年 七 寄 七 文 七 四 七 合 七 久

一 借中米二百五十石有十二ヶ月十五
 石利米二百石振若一ヶ月二石と利米
 何程と為

若一白一石と一ヶ月の利八石
 術曰利米二百石成実と成 別十二
 月二十五日と並くと月下年率三十
 石と除くと月数十二ヶ月と元米
 二百石と寄ると得数二十石と元
 十五石と除くと得数一石と元
 一石と月利八石

借入同少金事

十九

一 借入金四万五千七百六十円
一ヶ月の元金にあり利息を去るにあり
中向

是日十のあり月利金を去る

例曰元金^{四百}と去るにあり別不

利息^{去る}と去るにあり四銭同して

半利一銭と借入月数七銭に除て

一ヶ月の利息と借入法にあり去る

除て月利息を去るに元金^{四百}と去る
合入去

二十

一 借入限額同あり月数一年に一刻の利と
加^利と去る 毎去るにあり借入月数還して
借入年数何れにあり

是日二年。六日十一時一刻^{去る}

例曰元金^{四百}と去るにあり別不

年一刻の利率^{五分}と法にあり

實に繁しき得^{二十五}月内等も此に
 股以減しき余^七有^百一年余
 又法一と繁しき得^八月内
 等も此に股以減しき得^十百
 二^年の得しき又法一と繁しき得
 教^{二百五}十^五等も此に股以減しき得
 三年小不滿二年余も此に
 一^年毎に等しき得^八月内
 二年も有^九年^二と得^七年も得
 教^{二十}減しき得^三年^一後月也

母率と繁しき二年し得^七奇
 月^六及^七不備日との得^九日下
 各^三小^一日^一割^三教^百と繁しき得
 各^三と再^三等しき
 別^一と^一割^三教^百と繁^一日^一時^三教^十
 各^三と^一時^一割^三教^百と繁^一日^一時^三教^十
 法^三の^一實^一法^一不^一備^一日^一除^一時^三教^十
 及^三各^一の^一割^三各^一と^一時^一割^三教^百

了佛中之壬寅年

孟秋寫

Handwritten note on a small rectangular slip of paper.

共研會

